

令和4年度 第1回岡崎市図書館協議会議事録

1 日時

令和4年8月4日(木) 午前10時開始、正午終了

2 場所

岡崎市図書館交流プラザ3階会議室301

3 出席者

(1) 出席委員（7名）

大西裕子委員、平岩ふみよ委員、江良友子委員、山田美代子委員、
浦部幹資委員、小澤孝道委員、加藤善士委員

(2) 欠席委員（3名）

柴田悦己委員、赤羽根有里子委員、神尾太資委員

(3) 説明のため出席した事務局職員

安藤社会文化部長、鍋田中央図書館長、大村副館長、杉山総務係長、
天野資料提供サービス係長、上川畑情報サービス係長、渡邊主任主査

4 傍聴者

なし

5 次第

(1) 社会文化部長あいさつ

安藤社会文化部長あいさつ

(2) 委員紹介

各委員自己紹介による

(3) 会長及び副会長選出

会長：大西委員、副会長：柴田委員を互選

(4) 会長あいさつ

大西会長あいさつ

(5) 議事

- ア 令和3年度事業報告
- イ 令和4年度事業計画
- ウ 報告事項

(6) その他

6 議事要旨

(1) 令和3年度事業報告

事務局から説明

(会長)

事業報告について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

入館者数と貸出件数が、リンクしていないことについて分析がどうなっているか。また、図書館としてどちらを重視しているか。

(委員)

レファレンス件数も減っていて、戻りが弱い。コロナ前と比較するとレファレンス件数も6～7割に減っている。入館者、貸出、レファレンス件数について、何か分析があれば教えてほしい。

(事務局)

図書館の来館利用については、図書館内の座席を半分程度に減らしていること、また、この6月まで雑誌新聞コーナーの椅子を減らしたり、雑誌新聞コーナーに入口を設けて、そこでも消毒を実施していたこと、令和3年度中に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されていたときは、学生の学習席の利用について18時までの利用に制限したことなど、かなり制限がかかっていたため、入館実績は貸出と比べると、実績がついてこなかったと考えている。

貸出利用と入館利用どちらを重視しているのかは、なかなか難しい部分ではある。入館利用は、図書館を利用いただくことのひとつの指標と考えているが、どちらを重視するかといえば貸出になるかと思う。

レファレンス件数が令和2年度に大きく減ったことについてのしっかりした分析はできていないが、コロナの感染拡大防止としてレファレンスカウンターも常時人を配置しておらず、カウンターも1つに制限していた。また、利用者の長時間滞在を御遠慮いただいていたため、レファレンスに繋がるような図書館で研究をされる方が減ったと思われる。

(委員)

住民の方が生活していく中で調べたいことがコロナによってなくなることはないと思うので、レファレンスについても今後の回復を希望する。

(事務局)

昨年度は利用が減っていたが、今年に入って人出も回復し、図書館としても感染対策を徹底しつつカウンターも解放し、職員も常時配置している。利用者が利用したい時に利用できないといったようなことがないように対応する。

(委員)

予算決算の部分で、今年度予算について伺う。資料費が回復したことは大変喜ばしいことだが、それ以外の増減、給料などは人員構成によるものだと思うが、役務費や委託料、使用料及び賃借料、備品購入費といった増減が多いものについて理由を教えてほしい。

(事務局)

11節 役務費 114万7,000円の増は、図書館システムを置いている外部のデータセンターの利用料の上昇に対応するためである。

12節 委託料 294万8,000円の減額となっているが、昨年度の業務として、図書館で使用している自動化書庫のサーバーやそのステーションのパソコンを更新する業務が発生していたが、今年度はそれがなくなったことによるものである。

13節 使用料及び賃借料 989万9,000円の減額となっている。こちらは、図書館システムを運用しているパソコンなどをリース利用しているが、そのリース契約が今年度の途中で満了することによるものである。リース料負担はなくなるが、保守のみを継続している。

17節 備品購入費 349万5,000円の減額となっている。こちらは先ほど申し上げた図書館の自動化書庫のサーバーやステーションパソコンの購入費である。令和3年度に更新したため、その減額費用となっている。

(委員)

電子図書館の導入検討について伺う。まず、この電子図書館の取り組みとして、大変大きな取り組みになると思うが、実際導入するとき、メンテナンスをどの層に設定していくのか。例えば、障がいがあり、なかなか来られないかたや、子どもを育ててなかなか来られないかた、または若いスマホ世代を狙っていくのか。

(事務局)

メンテナンスについては、まだ検討の段階である。小学生の児童読書活動を充実させるという話が出ていたり、委員から話があった図書館になか

なか来ることができない障がいをお持ちのかたや普段図書館を利用しない若者層をターゲットにしたいという意見も出ている。

電子図書館の導入と継続にはコストがかかる。電子書籍の価格も紙の本よりも高いということもあるが、電子図書館サービスを始めたから通常の図書資料の購入や収集を減らすという性質のものではないため、利用が見込まれそうな児童、来館困難者、若年層すべてをターゲットにするのは困難であり、絞っていく必要がある。

(委員)

電子化されている図書自体が安くないということをよく聞くが、ターゲットをあまり広げると、浅く薄くなってしまい、あまり意味がないのではという心配がある。

実際に愛知県図書館でID登録をして、20冊ほど電子書籍を読んでみたが、子ども用の絵本とか、電子書籍を意識して作られた本は良いが、細かい資料が出てくるものや小説などは大変読みづらい。例えば夏目漱石の「吾輩は猫である」を読んでみたが、文庫本をスキャンした感じで、パソコンでも読めない、スマホではとても読めないというような感じであった。導入のメリットはたくさんあるが、そういうものだと、導入しても継続して使ってもらえないのではないかという心配がある。

近隣の図書館で導入済のところがたくさんあるため、実際に図書館職員がいろいろ借りて本当にうまく使えるか、検討していった方が良い。

本は活字で読む方が良いと私は思っており、本来の紙の図書が減ってしまうのは本末転倒だと思うので、しっかり検討して進めていただきたい。

(委員)

予算についてだが、図書館が本来事業費として考えているところはどこか。先ほど説明いただいた部分はほとんど固定費だと思う。事業を新規でやっていこうとすると、例えば電子図書館の検討についても、電子書籍を少しずつ入れていっても全然良いものはできないし、本当に電子図書館をやりたいのであれば、新しい図書館を作るくらいでやらないとなかなかできないと思う。そこまで踏み込んで事業を考えているか。電子図書館であれば、その辺りをどのように考えているか。例えば今年サーバーのリースが終わったとの話だが、そうすると、3年後くらいに必ず更新する時期がくると思う。その予算を今から見込んでおかないと、その時になって事業費が下がり、資料購入費に影響がでる恐れがある。その辺の予算上のタイムスパンをどのように考えているのか。図書館概要を見てもなかなかそこが出てこないの、状況を教えていただきたい。

(事務局)

図書館システムの更新等があると大きく委託料や賃借料などが変動するが、単年度ごとではなく、岡崎市の財政計画として向こう5年の予算の執行見込を算出し、どの年度で予算が大きく増加する、減少するというのをきちんと把握して運用している。

(委員)

昨年度保育園へのセット貸出が始まったということだが、無認可の託児施設についても、全部というわけにはいかないだろうが、許可制などにして貸出する方法を考えていただけるとありがたい。

(事務局)

図書館には団体貸出という制度があるため、そちらの制度で市内の施設に対しては対応ができると思う。個人の貸出ではなく、その施設、グループに対しての貸出ということで、通常個人だと2週間のところ、団体貸出であれば、30日まで貸出が可能である。冊数についても個人は10冊のところ、団体は100冊まで借りられるため、そういった制度を利用していきたい。図書館においても、団体貸出の制度の周知について、注力をしていく。

(委員)

幼児教育の世界にも、スマート化、デジタル化の考えが入ってきている。その一方で、幼児教育は子どもに直面して、細かく対応していくことが非常に重要である。家庭ではデジタル化が進んでいる中、幼稚園ではアナログな世界を作っているが、家庭に戻るとデジタル化した世界での生活になってしまう。絵本の読み聞かせなども子どもがお話に聞き入るような環境が作りにくい。ユーチューブなどが当たり前になっているが、保護者のかたへも大事なのは生の声で伝える、応答というところだと思う。超スマート化が進む社会で、幼児は超アナログ化してくださいという要望がたくさんの教育学者から出ている。幼児教育の現場としては、生の声で伝えること、子どもが何かちょっとあれって表情をしたら、映像と違ってそれに答えることも読み聞かせならできる。幼児教育の場ではアナログなやりとりを今後も大切にしていきたい。

(委員)

1歳前後からのスクリーンタイム、スマホとかテレビ、ビデオなどをたくさん観ていると3、4歳時点で自閉症スペクトラムの率が高いという報告がある。原因と結果ではなく、あくまで関連があるということであるが、アメリカでの報告でも青年期、16歳、17歳、その辺の人たちがスクリーンタイムをたくさん取っていると、不安症や鬱になりやすい、なる人が多い。原因と結果ははっきりしていないが、そうした調査結果もあるので、読み聞かせ

を積極的にやっていただけると良いと思う。そういうアナウンスも図書館で発信していただけるとありがたい。

(事務局)

電子図書館を運用していく場合でも、一気に進めたいとは考えておらず、やはり読み聞かせや、親子の触れ合いなど、ブックスタートもそうだが、生の温もりを感じながら絵本を楽しんでいただくという部分は、図書館としても変えたくないところではある。家庭の中でも、より電子化が進んでいるということなので、これからどう伝えていくか、深めていかないといけないと考えている。

一方で、電子図書館も来館が困難と言われる方たちに対するサービスとして全く考えないわけにはいかないため、小さくスタートできるといいとは思っており、検討を続けていくので今後ご助言をお願いしたい。

委員がおっしゃるとおり、アナログの方向は残しながら、とは考えている。

電子図書館はまだ発展途上のサービスであるため、いろいろな意見、反応、また、他市の実施例など、そういったものもあると思う。当館はいわゆる後発になるが、後発の利点はそれなりにあると考えており、例えば他市で1年間2年間実施してみて、なかなか利用者数が伸びなかった、コンテンツが集まらないとか、そういった意見もあると思っている。それらを含め、また委員の皆様からいただいた意見も検討材料として加味していきながら、考えていきたい。

当然予算も導入後のランニングコストもかかることになる。後発であるため失敗はしたくないので、やる以上は来館できないかといったターゲット層への取り組みも行うが、一方で読みきかせ等のアナログな部分も当然大切にしていきたい。全てひっくるめて検討しながら電子図書館というものをスタートしていきたいと思っている。また、今年度の取組内容については簡単ではあるが、後ほどの令和4年度事業計画で説明させていただきたい。

(2) 令和4年度事業計画

事務局から説明

(会長)

事業計画について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

テーマ展示について伺う。こんなにたくさんやっているのを正直知らなかった。とても良い展示をやっているが、実際こういった展示の見学者数などの反響は把握されているか。

(事務局)

利用状況について、数としては把握が難しいため、具体的な数値というのはない。ただ、本がどのくらい動いているかという職員の感覚として今回のテーマは人気があるのかなど、今回はちょっと人気がない、といったニーズを肌感覚で感じ取りながら実施している。

(委員)

とても良い展示なので、もっとたくさんの人に見ていただいた方がいいと思う。私自身りぶらには週に1回のペースで来ていたが、実際知らなかったものが多い。館内に1階にも2階にもこういうテーマ展示やっていますという案内があるが、ちょっと目立たないのではないかな。例えば日曜日など人が多い時に、図書館のスタッフの方が案内をしたら、だいぶ増えるのではないかなと思う。1回見たら、次もりぶらに来た時にはちょっと目を止める、という人が増えるのではないかな。もう少しPRをやっていたら、もっと有効なものになるのではないかなと感じた。

また、図書館の司書体験について、4月と8月にやっているが、体験型のイベントは子どもにすごく人気がある。今回も7月、8月で4回実施されているが、体験可能な人数が8名ぐらいとなっている。もう少し人数を増やして、子どものりぶらファンを増やす、という観点でやられたらどうかなと思う。今やられているのが、小学校4年生以上中学生までだが、2時間半ぐらいはかかるということであれば、小学校低学年ぐらいの児童に図書館のバックヤード見学など、もっと時間を短くしてぎっと見せてあげる、そういうようなことを考えていただきたい。こういう体験学習等は 多分人気があると思われるため、検討していただけるといいなと思う。

(事務局)

体験型ということで、やはりコロナ禍では大人数でやるというのが難しいところがあり、人数と時間を絞っているというのが現在の状況である。ただ、もう少し回数を増やすなど、いろいろ工夫しながら、図書館への興味関心がより増すようなイベント、講座を考えていきたい。

(委員)

中学校の職場体験などはここ何年かやれてなかったと思う。職場体験で生徒が来館するとバックヤードを見せていただいたりとか、自分も見た時はすごいなと思った覚えがあって、そういう体験ができると、中学生も司書を目指そうという子が出てくるのではないかなと思う。

(委員)

2点ほど伺う。まず1点目、読み聞かせ実施のための工夫と調整について、どのようなことを考えているか教えていただきたい。2点目は、来年は「ど

うする家康」の放映ということで、岡崎も随分人が来ることが想像できる。いろいろ講座をやられるとお聞きしたが、図書館は近くに岡崎城があるので、りぶらを拠点に情報収集をして、岡崎の中を回る、そういう情報収集の場として、りぶらを活用するという考えはあるか。

(事務局)

読み聞かせ実施の工夫としては、今までは当日来館された人は入れるだけ入っていただき、お話を聞いていただいていたが、現在は人数制限を行い、受付を設置して利用者の方のお名前と連絡先を確認のうえ、距離も十分取れる人数で実施することで対応している。また、赤ちゃんの読み聞かせは人気があるため入替制で同日に2回やったりするが、入替の際には必ず消毒作業を実施している。

ボランティアと共同で取り組んでいる事業であるため、職員とボランティアが共通の意識を持って、しっかり対応をしながら実施している。

2点目については、図書館では、先程の説明のとおり家康文庫と関連した資料の展示、講演会を行う予定である。他の情報発信についてはまだ具体的に決めていないが、その時々に合わせてテーマ展示をやろうと考えている。市を挙げてイベントがある時には必ずこうしたテーマ展示はやっているため、今後考えていきたい。

また、岡崎城の改装、ドラマ館の改装が進んでおり、この地区を中心とした観光推進への取り組みといったことは、どうする家康活用推進課やどうする家康活用推進本部が中心となってやっている。観光はもとより文化、歴史の発信という形で努力をしていると聞いている。

(委員)

家康の関係で、いろいろな発信をいろいろなところでやられる。それを図書館として、アーカイブしていく、蓄積していく、そして終わった後に検証できるようなものとして、取っておくことが非常に重要である。

(事務局)

図書館としては、行政資料、郷土資料の収集を行っているので、今回の件についても積極的に収集を行っている。

(委員)

行政だけでなく、民間がやるのも含めて、それもあるべく集めていただけると良い。

(事務局)

将来に向けて行政が発行する、民間が発行する資料については、精力的に収集していく。

(委員)

図書館まつりの時にカルタの会で先生が子どもたちに向けて、面白おかしく家康のことを話してくださった。そういう風に、民間の団体も家康ということを考えてやることも多いと思うので、ぜひ収集していただきたい。

(3) 報告事項

ア 新型コロナウイルス感染拡大防止対応について

イ 「岡崎市子ども読書活動推進計画（第三次）」の対象期間延長について

ウ 資料返却期限を延滞している利用者に対する貸出制限の見直しについて

エ 全国公共図書館協議会表彰候補者の推薦について

オ 寄附の報告

事務局から説明

(会長)

報告事項について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

アンケートについて、期間を検討するということだけだが、基本的に長く返せなかった理由をみていくと、期限を忘れていたという理由が最も多い。これについてはなんらかの対応を考えていただく必要があるかと思う。仮に1か月に短縮したとしても、どこの人に響くかということ、面倒だとか、そういうところにしか響かないかもしれない。元々の目的の回転率をあげるためにみなさんにきちんと返してもらおうということになってくると、見直しだけでなく、例えば、メールによる督促をするなど新たな施策を考えていただく必要があると思う。期限を忘れていたという方がこれだけいて、調査の1,200人のうち、700人が1回は延滞したことがあると回答しており、そのほとんどが1週間以内に解消されているということになれば、残りの200人をターゲットとすることの方が重要な気がするので、考えていただければと思う。

(事務局)

期限忘れの対応だが、図書館のホームページのマイページの中に、返却期限が近づいてきたらメールでお知らせするという機能を取り入れることを検討している。また、他の新たな対策だが、現在実施している督促として、メール督促は常にやっており、ハガキや電話による督促、直接自宅へ伺う督促もやっている。この自宅督促に関しては、どういった形が効果的かということで、長期に時間が経ってから督促に伺うのではなく、1年以内に督促に

伺った方が回収を見込めそうだというようなことが最近いろいろ試している中で感じている。他にも、資料の予約について、延滞資料がある方は、新規の予約を受けないようにするなど、細かな取り組みも合わせて見直しを検討している。

(会長)

その他質問などはよろしいか。(なし)

これで議事は全て終了である。